

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の促進—環境・観光・子育て教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道豊富町

活動団体名：豊富町観光協会

中間支援主体名：北海学園大学

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

大学が中間支援者として提供できる機能は、1) 大学教員がもつ専門性やノウハウを地域社会に提供すること、2) 地域社会とのコーディネートや橋渡し役を担うこと、3) 大学生（北海学園大学など）を派遣し地域体験へ従事させること、4) 大学生を将来の中間支援者に育成することの4つを考えている。

次年度の活動では、1-3)の機能をより効率的・効果的な成果が出せるように内容を改善させていく。4)については、大学で体系的な教育プログラムを開発するように検討を進める。

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

今年度の「ワクワクとよとみ未来会議」は、①講演会やワークショップ、②大学生の地域インターンシップ、③テントサウナイイベントを実施した。これらの事業にて、中間支援主体として企画立案と運営を支援してきた。

①講演会やワークショップでは、子育て・教育の専門家による講演会を実施した（機能1）。ワークショップでは、大学教員や大学生がコーディネート役を担った（機能2と4）。

②大学生の地域インターンシップでは、9月に1-2週間豊富町に滞在し、事業従事やヒアリング活動などに取り組んだ（機能3と4）。

③テントサウナイイベントでは、大学生による企画を地域住民と一緒に2回実施した（機能2と3）。

今年度は、大学生がいくつかの企画を立案して運営し、また、地域の子どもたちを巻き込んだ活動に取り組むことができ、「環境・観光・子育て教育・定住」の横断的かつ複合した事業を実施できた。とくに地域に入り込んで活動する大学生が生まれたことは大きな成果である。内容や運営で改善すべき点が残されているが、今年度の目標達成は80%としたい。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	◎	コアメンバー会議で企画の目的を設定	◎	コアメンバーで企画の目的を整理できた
	意味づける	○	コアメンバー会議で企画の意義を検討	◎	意義を踏まえて企画を立案した
	癒しとなる	—		—	
	見通しをつける	○	コアメンバー会議で企画の目標と計画を検討	◎	年度の計画はほぼ全て実施した
プロセス支援	話を聞く	○	イベントで住民の話を聞く	○	住民の話を聞いた
	場を開く	◎	住民が参加する場を開く	◎	イベントを開催した
	喝を入れる	—		—	
	現在地を確認する	○	本事業の最終ゴールを設定	○	3つ程度の事業化が見通せた
資源連結	新しい人を入れる	○	新たなイベント参加者の拡大	○	毎回のイベントで新たな参加者が加わった
	事例を紹介する	○	事業の参考となる事例を紹介	○	事例紹介でテーマの深掘りができた
	引き出す	◎	住民の本音を引き出す	◎	ファシリテーターが本音をいくつも引き出した
	拡散する	○	イベントの告知や活動内容をSNSで拡散する	◎	インスタなどSNSで告知した
問題解決提示	文字や図に落とす	○	ワークショップで参加者が意見を書き出す	○	ワークショップで参加者の意見を書き出した
	問いを立てる	◎	ワークショップで問いを立てる	◎	問いを立てて参加者同士で意見交換を行った
	会議を進行する	○	ファシリテーターがワークショップを進行	◎	ファシリテーターがワークショップを行った
	落としどころを探る	○	事業の具体化にめどをつける	○	事業のタネをまくことができた
その他	※必要に応じて追加	◎	中間支援者の育成	○	大学生が地域に入り込んで企画を協働した

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

【R7年度当初目標】

中間支援主体としては、上記の4つの機能を獲得し、大学の特性を活かして地域づくりへ貢献していきたいと考えている。

本事業に関わる専門性はオーダーメイドで対応する必要があるため、関連の先進例の調査によるノウハウを蓄積し、実践的な知見の提供を目指す。また、大学生が、中間支援者を現場で担えるように教育・指導し、未来の中間支援者を養成していく人材育成プログラム開発を目指す。

この事業を通じて中間支援機能を獲得し、豊富町で研究と大学教育の実践の場として継続的にサポートしていく。そして、地域資源を活かした地域課題の解決、人をつなぐ役割を他の自治体でも実施し、地域循環共生圏づくりに貢献していく。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
大学が果たすべき社会的貢献として、地域づくりへの関与や支援	・引き続きイベントの企画と運営、大学生の地域インターンシップのプログラムの実施、先進事例の調査・視察先の選定などを支援していく	変革支援、プロセス支援、資源連結

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

地域コーディネーターとして活躍している「地域おこし協力隊」との連携を希望する。